

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

国語

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった。

②書くこと

概ね良好な結果であった。

③読むこと

概ね良好な結果であった。

④言語事項

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・漢字の読み書きは、正答率が高い。
- ・選択式の問題形式の設問は、無解答0人である。
- ・平仮名で書かれたものをローマ字で書く問題がもっとも正答率が低い。
- ・「省く」の読み、「そうだん」のかきとりについては大阪府の正答率よりも大きく上回った。

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった。

②書くこと

概ね良好な結果であった。

③読むこと

概ね良好な結果であった。

④言語事項

概ね良好な結果であった。

⑤関心・意欲・態度

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②記述式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・目的に応じて、本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方を工夫する設問が、もっとも正答率が高い。
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む、記述式の設問が無解答率が高い。
- ・グラフを基にわかったことを的確に書く設問の正答率が一番低い。

分析

○国語ABについて、全国・大阪府平均を上回り、前年度よりも上回る結果となった。

とりわけ国語Aについては、「短答式」の問題形式については良好な結果であった。その他も総じて概ね良好な結果であった。質問紙調査の「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しい」と答える児童が多く、「書くこと」に苦手意識を感じている児童が多い。この間本校の課題として取り組んできたところであるが、一層の取り組みの強化が必要である。

○無解答率は、国語ABともに全国に比して低く良好である。

○「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」「国語は将来役に立つと思いますか」の項目について課題が見られる。子どもたちの苦手意識をなくすために、児童が楽しいと主体的に取り組める授業の工夫を学校全体で考えていくことが喫緊の課題である。

○「読書が好き」という項目について、年々上昇してきているものの、全国よりも肯定的な回答をする児童が依然少なく、今後も朝の読書タイムを継続し、読書活動をより推進し読書に親しみを持つ機会をふやしていく必要がある。

○●算数・数学●○

算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

やや課題が残る結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・「2つの数の大小関係を表す不等号を書く」設問が、もっとも正答率が高かった。

・「百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く」設問が、本校でもっとも正答率が低く無解答率も高かったのだが、正答率は全国・大阪平均よりも大幅に上回っており、無解答率も全国・大阪より低い。

・「末尾の位がそろっていない小数の加法の計算」の正答率がもっとも低かった。

・「数量や図形についての技能や知識・理解」の短答式の設問では、無解答率0が続いていた。

算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・「割合や単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し特定する」設問での正答率が全国・大阪府より大きく上回った。加えて、無解答率も低かった。

・「示された図において、他の正方形について検討し、同じ決まりが成り立つか調べる」設問の正答率がもっとも高く、無解答率も0であった。

・「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に式の意味を説明する」設問が正答率が最も低く、「示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述する」設問で無解答率が高かった。

分析

○算数Aでは、ほとんどの区分で全国・大阪府平均正答率を上回っており、概ね良好な結果であった。領域別では特に「数量関係」が良好で、具体的には「割合で基準量と比較量を理解している」「示された場面を適切に読み取り式に表す」設問での正答率が全国より大きく上回っていた。しかし、「くり下がりのある減法」「末尾のそろっていない小数の加法の計算」「図形の構成要素に着目して、図形を構成する」の設問では、わずかに正答率が下回っている。また、「除数と被除数の大きさ」「図形の構成要素」「直方体における面と面の位置関係」の設問では、無解答率もわずかに高かったので、基礎計算の定着を図り、図形領域では操作や作図を十分にさせ繰り返し学習をするなど、習熟を図る取り組みを充実させる必要がある。

○算数Bでは全ての区分で、全国・大阪府平均正答率を上回っており、概ね良好な結果であった。領域別では「数と計算」「数量関係」が良好な結果で、問題形式を問わず正答率で全国平均を上回った。設問別に分析すると、「示された式に数値を当てはめる」「単位量当たりの大きさを求める」ことに関して特に正答率は大きく上回った。しかし、問題文が複数ページにわたり「複数の情報を一度に読み取り整理しながら判断する」「示された説明を解釈し更に説明を記述する」の設問で正答率がやや下がり、無解答率も上がっていた。

○学校全体で問題解決型学習を中心とした授業改善に取り組み、授業改革の実践を継続している成果が、今回の良好な結果に表れている。「算数の勉強が好き」のポイントが全国・大阪府を大きく上回ったのは、共同的な学びを目指した授業づくりについて、研究・実践を重ねてきた成果であるといえる。また、「めあて」「自力解決」「発表・練り上げ」「ふりかえり」の授業スタイルを学校のスタンダードとし、各学級で授業づくりに取り組んでいる。その成果が、関連の項目について「当てはまる」という回答率が全国より大きく上回ったことに表れている。今後も、今回の成果を維持するための授業づくりを継続・深めていく。そして、さらに学力低位層を減らすための手立てを研究・実践していくことが重要である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

取り組みが始まった年度より、上昇傾向にある。

特に算数が上昇率が高い傾向にある。

無解答率が経年の推移として低下している。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層はプラン開始の中で最も増加。

学力低位層が昨年度よりやや増加している。学力低位層を減少させるための更なる手立てが必要である。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

○「国語が好き」になる授業改革

- ①「楽しい」「わかる」「やってみたい!」「教科や学習が好き」と子どもたちが生き生きと学ぶ姿を中心とした授業づくり、子どもたちが主体的に学べる授業づくりの研究の継続とさらなる追求。
- ②国語科での研究授業を実施。
- ③「読書好き」を増やす取り組み
読書活動の活性化の継続。委員会活動、読書貯金、読書週間の取り組みの実施、感想文指導、図書環境整備。

○書く力（記述力）の向上にむけての取り組み

- ①教科・時間を問わず「書く活動」の充実
すべての教科で「書く」ことを意識した授業改善を図る。「書く」に対する苦手意識や、抵抗感をなくしていくための工夫を行う。また、自分の考えを書く際に「理由を書く」「まとめる」「説明する」等の活動の機会を充実させ活用力を高める授業づくりを目指す。
- ②書くことに課題のある児童への支援の充実
- ③書くことへの価値付け・フィードバックの場の保障

○学力低位層を減らす取り組み

- ①計算タイムの取り組みによる基礎基本の習熟の継続。
校内全教師による入り込み指導の体制が確立、実施中。昨年度作成した計算タイムファイルの活用を全学年で実施継続。
- ②補充学習の充実
昨年の課題を受け、学習に課題のある児童の支援の一つとして高学年を中心とした授業時間外での補充学習の校内体制を確立させ、担外、学習支援者を中心に実施継続。

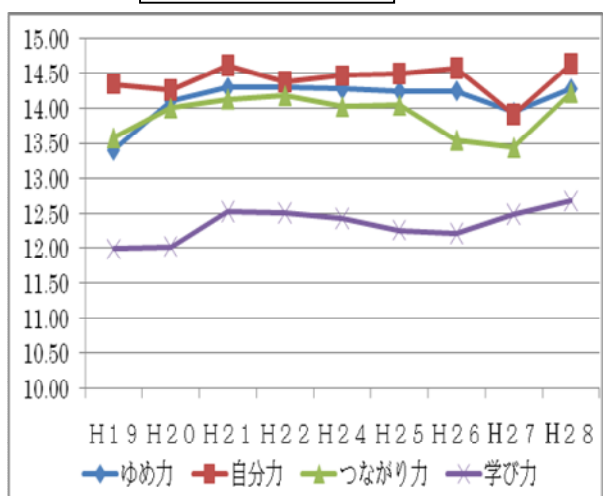
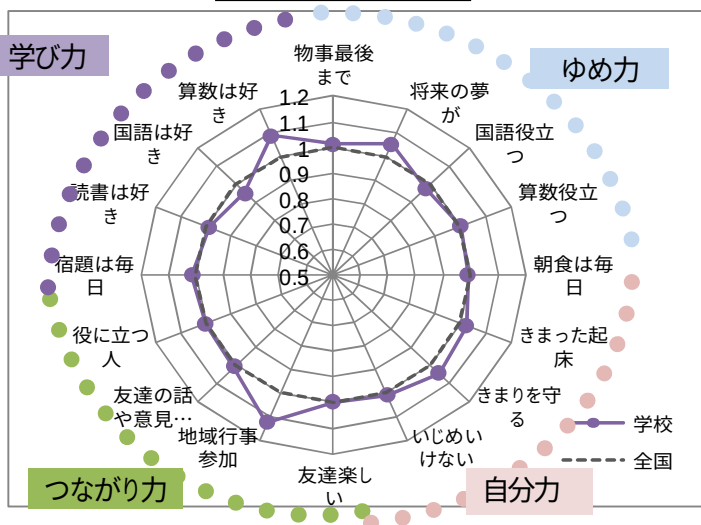
○家庭学習の定着・充実に向けた取り組み

- ①家庭学習の定着・充実を図るため、各学期に一回「家庭学習週間」の取り組みの実施・保護者への報告。
- ②ゲームやテレビの視聴時間を減らし生活リズムを整えていくための家庭への働きかけ・発信の継続。
- ③予習、復習、自主的・計画的な学習の充実に向けた学校全体の取り組みの検討。

子どもたちに育みたい力

今年度の結果

これまでの推移



分析

- 自分力では「きまりを守る」「いじめはいけない」といった規範意識が高い。「朝食は毎日食べる」ポイントがやや低かった。普段の生活を振り返る機会や規則正しい生活リズムを意識させる取り組みも必要であると考えられる。
- つながり力では地域行事への参加と地域への貢献率は非常に高く、自分たちが生活している場所や人に関心が高いことがわかる。行事の充実に加え、各ボランティア活動など様々な形で子どもたちに関わってくださる地域の方々の力は大きい。学校では他者との関わりや自尊感情を高め合うような集団作りをより充実させていく必要がある。
- ゆめ力では「将来の夢がある」ポイントは全国平均より非常に高く、自分の将来について肯定的な感情を持っている傾向にあることが伺える。一方「国語が将来役に立つ」という項目が低い。
- 学び力では、「算数好き」のポイントが大きく上昇した。これは、学校全体で算数好きをふやす取り組みを継続してきたことで、低学年から「算数が楽しい」「児童が主体的に学ぶ力」等が積み上がってきた成果であると考えられる。また、「宿題を毎日する」ポイントが高く、「家庭学習の手引き」の作成や「家庭学習週間の取り組み」などで意識改善が進んでいると考えられる。一方で、「国語が好き」「読書が好き」のポイントが低く、読書活動の活性化と、国語の学習が楽しいと感じられる授業づくり等の、更なる取り組みの工夫、授業改善・研究が急がれる。

これまでの推移の分析

- 4つの力全体では、「学び力」は上昇している。「つながり力」もこれまでに比べて上昇し、わかる授業や居場所作り、自尊感情を高められるような活動の充実を、学校全体で取り組んできた成果がみられた。今後も維持できるよう、学級・学年・学校全体で、子どもたちが主体的に活動できる場を保障する取り組みを継続していく必要がある。

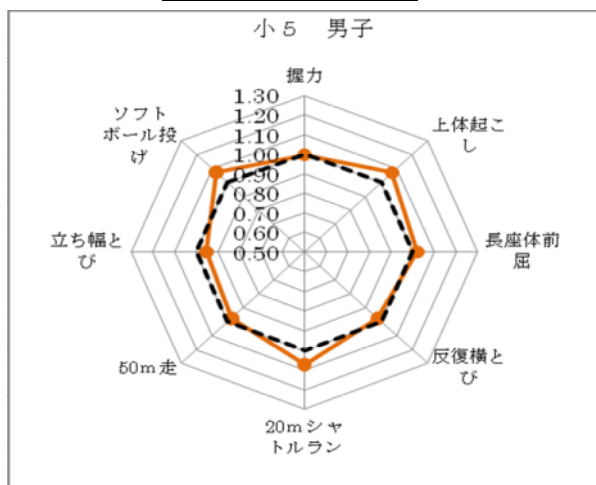
取り組み

- 4つの力のポイントを維持していく。
 - ①ちがいを認め合える人権学習や、子ども同士がつながることのできる集団づくりにより一層力を入れて、どの子も居場所があり安心できる集団を育てていく。
 - ②子どもたちが主体的に活動できる場を増やす。学級活動、係活動、児童会・委員会と言った特別活動を活性化させ、全校への発信や発表の機会を増やしていく。
 - ③5年目に入る外国語活動の研究を推進し、子どもたちが外国語をツールとして、生き生きとコミュニケーションが図れるようになることをめざす。
 - ④異学年交流を充実させることで、「役に立ちたい」「気持ちになりたい」など、年齢に関係なく他者との関わり方を深めていく経験を積む。
- 「算数が好き」のポイントの維持と「国語が好き」「読書好き」のポイントを高め、学び力を高める。
- 教師の児童への視点を広げる。「子どものがんばり」「表情」「しぐさ」「目線」などを見逃さないように、教師の観察する力や関わる力を向上させる。達成感や認められているという自己肯定感をより一層あげられるような取り組みも研究していく。

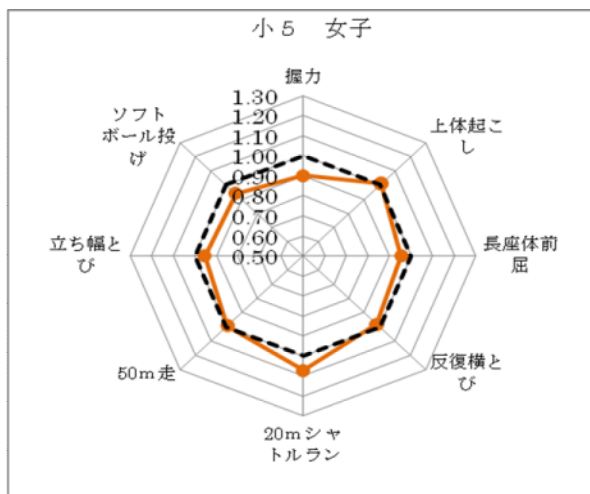
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



分析

○5年生においては男子、女子ともにどの種目も概ね良好な結果であった。ただし、学校全体で見ると反復横跳び、20mシャトルラン、ソフトボール投げに課題のある結果となった。そのため、本校としては俊敏性、持久力、投力に課題があると思われる。

○ここ数年、俊敏性と持久力は課題に挙げられてきた。そのため、校内研修や小中合同の取り組みを進めてきた。その結果、5年生は男女とも全国平均と変わらず、取り組みの成果が見られた。ただし、一時的な成果でないよう、引き続き、授業はもちろん、様々な行事や取り組みと関連付けて、体力向上を進めていきたい。

○今年度は「体育の授業は楽しい」「運動やスポーツをすることは好き」などの項目で肯定的な回答が多かった。これは、校内研修などによる、授業改善の結果だと思われる。この成果を持続するためにも、より一層、苦手意識をもった児童に対して、楽しかったと思える授業を進めていきたい。

○日常的に運動をしている割合が全国よりも高い。そのため、休み時間の体育館開放など学校でできることを継続して体力向上に取り組んでいきたい。

取り組み

(1) 運動習慣につなげる取り組み

- ① マラソン期間の設定…マラソンカードの配布。5・6年生、西河原との合同マラソン大会 (案)。
- ② なわとび…年間取り組めるよう、ジャンピングボードを設置。学習カードの配布。
- ③ 休み時間の体育館使用 外遊びの提案・励行

(2) 授業改善「楽しい (またやりたい)」「汗をかく (運動量の確保)」「できた!」と言える授業の追求。

① 校内講習会

- ・学期に1度のペースで、講習会を行う。

例：表現運動、水泳、陸上運動の指導について

② 環境づくり

「マット・とび箱」

- ・校内で行う期間を決め、使いやすいように外に出しておく。
- ・体育館内に掲示物を貼ったり、タブレットを使ったり、動きの確認をできるようにする。

③ 学習カードや副読本の活用

子どもたちが自分のめあてを設定し、それに向けて練習方法を工夫する授業を追求する。
評価にも活用する。

④ 茨木っ子運動の実施

毎回の体育の時間に実施。体幹を鍛え、体のコンビネーションを整える。

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	つながり、学び合い、確かな力を育む 学びの創造	体を動かすこと大好き！ な子どもを育てる	「好き・書く・体力」の ジャンプアップを実現
平成26年度	(1) 書く力（記述力）の向上 ・学校全体での「書く」取組。 ・書けない子への支援 (2) 「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 (3) 「算数好き」「国語好き」を増やし、学び力を高める。 ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造 ・スクールスタンダードの定着 ・子どもたちが生き生きと学ぶ姿を目指す授業の指標づくり ・「練り上げ」「交流」を中心とした算数科の授業研究の継続 ・読書活動の活性化の継続 (4) 学力低位層を減らす。 ・担外、管理職、学習支援者も入った補充体制づくり (5) 家庭の教育力を高める。 ・家庭学習の定着を図る手引きづくり。 ・テレビ・ゲームの視聴時間を減らすための発信。	(1) 運動習慣を身につけるために ・年間を通してマラソン・なわとびに取り組む。 ・休み時間の外遊びの励行 ・休み時間の体育館開放 (2) 「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・公開授業の実施 ・保健体育部によるカリキュラムの整理 ・学年授業研究の実施 ・茨木っ子運動の実施 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用	○「好き」になる授業づくり - 算・数で共同研究 ・太田小公開授業 ・太田中数学担当が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組 ・指導法共同研究 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン「みんなで走って地球一周」の取組 ・西河原小 体力向上プロジェクト授業の参観 ○事務の共同実施
平成27年度	(1) 書く力（記述力）の向上 ・学校全体での「書く」取組。 ・書けない子への支援 (2) 「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 (3) 「算数好き」「国語好き」を増やし、学び力を高める。	(1) 運動習慣を身につけるために ・年間を通して持久力を上げる取り組みを行う。 ・休み時間の外遊びの励行 ・休み時間の体育館開放 (2) 「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・校内研修の実施 ・保健体育部によるカリキュラムの整理 ・茨木っ子運動の実施	○「好き」になる授業づくり - 算・数で共同研究 ・太田小公開授業 ・太田中数学担当が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組 ・指導法共同研究 ・西河原小公開授業(国語) ○問題解決的な学習の充実 ○「体力」づくり ・体育授業の改善

	・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造 ・スクールスタンダードの定着 ・「練り上げ」「交流」を中心とした算数科の授業研究の継続 ・読書活動の活性化の継続 (4) 学力低位層を減らす。 ・担外、管理職、学習支援者も入った補充学習の実施。 ・習熟を図るための取り組みの推進。 (5) 家庭の教育力を高める。 ・学期に一度の家庭学習の定着を図るための取り組み。 ・自主学習の充実に向けた体制づくり。	・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用	・体育公開授業(西河原・太田) ・中学校区全体でマラソン 「走って走って日本縦断」 ○上記の項目の子どもの実態を調べるため、意識アンケートの実施と考察(年2回) ○事務の共同実施
平成28年度	3カ年計画の取り組みの総括 (1) 書く力(記述力)の向上 ・学校全体での「書く」取組。 ・書けない子への支援 (2) 「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 (3) 「算数好き」「国語好き」を増やし、学び力を高める。 ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造 ・スクールスタンダードの定着 ・「ふりかえり」を中心とした算数科の授業研究の継続 ・読書活動の活性化の継続 (4) 学力低位層を減らす。 ・担外、管理職、学習支援者も入った補充学習の実施。 ・習熟を図るための取り組みの推進。 (5) 家庭の教育力を高める。 ・学期に一度の家庭学習の定着を図るための取り組み。 ・自主学習の充実に向けた体制づくり。	3カ年計画の取り組みの総括 (1) 運動習慣を身につけるために ・年間を通してマラソン・なわとびに取り組む。 ・休み時間の外遊びの励行 ・休み時間の体育館開放 (2) 「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・公開授業の実施 ・保健体育部によるカリキュラムの整理 ・学年授業研究の実施 ・茨木っ子運動の実施 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用	○ジャンプアップ 3カ年計画の総括・検証 ○カリキュラムの完成 ○小中連携ブロック会議の推進 ・合同授業研修を3校で実施 6月太田小学校 7月太田中学校 11月西河原小学校 ○「好き」になる授業づくり ○ブロック通信を発行 ○「書く」活動を全教科で ・めあて・ふりかえりの実施 ・指導法共同研究 ○問題解決的な学習の充実 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・体育公開授業(西河原・太田) ・中学校区全体でマラソン ○上記の項目の子どもの実態を調べるため、意識アンケートの実施と考察(年2回) ○事務の共同実施